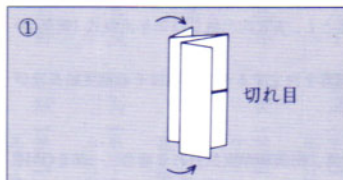
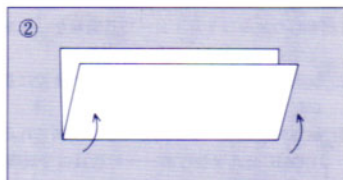


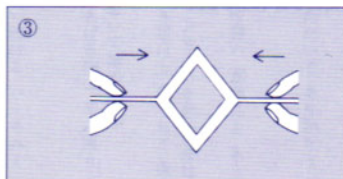
プログラムの作り方



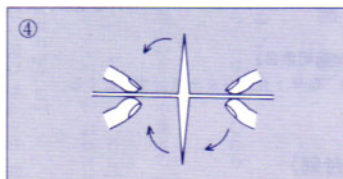
①図のように折目をつける



②いったん開き、こんどは下の面を上
に折る。



③両端を手で持ち、真中に寄せる。



④矢印の方向にまとめあげる。

.....1992年航海記録.....

- 2月 「ザ・グレート」第1回演奏会主催（コールシャンティとの合同合唱団）
関西歌劇団オペラ「飛鳥」出演
- 3月 第7回出帆式
- 4月 阪上先生結婚披露パーティ参加（有志）
- 5月 「パーカッションフェスティバル」出演
- 6月 第28回夏のバカンス（沖縄・座間味島）
- 9月 池田混声合唱団応援出演（有志）
尼崎市合唱団応援出演（有志）
- 10月 大阪オペラ協会「フィガロの結婚」応援出演（有志）
雑誌「有楽」にて活動紹介
- 11月 「程さんの唄う出版記念会」応援出演（有志）
テレビ大阪「ほっとニュース」に放映
- 12月 松尾先生「尼崎市民芸術奨励賞」受賞祝賀会参加（有志）
「感動の第九」出演（新唱会として参加）



OSAKA MEN'S CHORUS

プログラム

Sea Chanty

指揮：松尾 昌美
伴奏：OMC Ensemble
Santy Anna
Swansea Town
Bound for Rio Grande
Leave her Johnny

男声合唱組曲 野分

作詩：井上 靖 作曲：高田 三郎
指揮：松尾 昌美 ピアノ：岡本佐紀子
1. 海辺
2. 野分
3. 木乃伊（ミイラ）

チャイコフスキー没後100年 ソビエト崩壊記念!?

特別番組

作詩：作曲：編曲：指揮：ピアノ：早野柳三郎
実演：チャイコフスキー「ピアノ協奏曲第1番」
講演：チャイコフスキーとロシア民族音楽について
チャイコフスキーとOMC

なりゆきにより、演奏曲目及び講演内容に変動がある事も
ございますので、ご了承下さい。

プログラムノート

■Sea Chanty

大阪メンズコーラスは1965年の結成以来この Sea Chanty をずっと歌い続けています。メンバーに本職の船乗りが居る訳でもなく、勿論クルーザーを持っている筈もなく、ようやく4級船舶免許を持っている者が一人だけという現状です、しかしそれでも頑固に、こだわり続けて来ました。

世界の七つの海を舞台に、今では想像すら出来ない厳しい航海。それも、木と布とロープで出来た帆船に乗って、風の力だけに頼り、錨の上げ下ろしも、帆の上げ下ろしも、全て人手による過酷な労働。そんな中で連綿と歌い継がれた本当の男達の歌が、殆ど全員がサラリーマンの OMC にとっては、少年時代に思い描いた夢の世界を思い出させてくれるようにも思えるのです。

今では民謡の範疇に入る Sea Chanty も、他の民謡の大部分がそうであるように、元々は船乗りたちの生活のリズムを刻み、仕事の調子を合わせ、そして心を和ませる。そんな役目をになっていたのです。仕事歌として歌われた物は、その仕事に合ったテンポとリズムを持っており、リーダーの掛け声に合わせて作業者が声をそろえてそれに応える、という形の物。また、錨の上げ下ろし等のキツイ仕事の時は、ストーリーのある歌詞に単調なメロディーを付けて、繰り返し歌われる物が一般的です。

しかし、メロディーとしては何といても、故郷や港の彼女を思っ歌う曲が、一番美しいのは言うまでもありません。

■男声合唱組曲「野分」

3曲とも、井上靖の散文詩に作曲されています。従って、言葉はわかりやすく、それをたどってゆくと、詩人の心が、その変化が素直に理解できます。作曲家は、その語り調の詩のイメージをできるだけくずさぬようにしながら、詩から感じたロマンの衣をそれにかぶせていっています。

1. 海辺

小さな海辺の町で、ささいな事から地元と都会の中学生の集団のけんかがあった。わずか3分ばかりのことだったが、詩人はそれを見て、若さに対する激しいまでのしつとを感じた。作曲家は、ピアノの前奏と後奏をほぼ同じものにする事で、詩人の心とは裏腹に、何事もなかったかのように静まりかえっている海を表現し、詩の情緒を増幅させている。

2. 野分

この詩のイメージと同じように、曲はすぐに通り過ぎて終わってしまう。言葉に盛り込んである風と時のダブルイメージ、過ぎ去った時は二度と戻らないという、どうしようもない空しさを理解している暇はないかもしれない。しかし終わった後、もう一度聞いて確かめてみたくなるような心残りを感じてもらえたら大成功である。

3. 木乃伊 (みいら)

詩の前半のほとんど説明的な表現から、後半は詩人の一方的なミイラへの語りかけとなってゆく。客観的に見ているだけでは何の変化もないが、自分とイコールであると思った瞬間、すべての真理を悟ったような不思議な感触が詩人を襲った。

■チャイコフスキー没後100年・ソヴィエト崩壊記念!?

——特別番組——

Pyotr Ilich Chaikovskii(1840-1893)は、作曲家としてはかなり珍しい経歴を持っています。ある意味では波瀾に満ちた人生だったとも言えるでしょう。比較的裕福な家庭に生まれた彼は、幼少時から特に音楽の専門教育は受けず、ベテルブルグの法律学校から59年司法書記として法務省に就職します。残念ながらお役人としてはあまり優秀ではなく、今風に言えば若くして窓際族だったのかも知れません。61年から音楽教室に通い始め63年には職を捨てルビンシュタインが設立した音楽院に入学し、26才で創設間もないモスクワ音楽院に音楽理論の教師として再就職しました。

66年「交響曲第1番」を発表、71年頃には教科書を出版したり批評家として活動し、「アングテンテ・カンタービレ」を含む「弦楽四重奏曲第1番」を発表、西欧留学後には独自の作風を確立し75年「ピアノ協奏曲第1番」、76年「白鳥の湖」、77年「交響曲第4番」等代表作を次々と発表します。77年には音楽院の生徒であったアントニーナと結婚しますが直ぐ離婚してしまい、この事が彼の以降の人生の深い傷となってしまいます。その後メック夫人に経済的援助を受け、作曲活動に専念し88年「交響曲第5番」、92年「眠れる森の美女」等作曲します。しかし、離婚後憂鬱病に罹り、メック夫人の破産で援助も無くなり大打撃を受けます。

93年ベテルスブルグで「交響曲第6番」—悲愴—を作曲し同年当地でコレラにより病没した事になっています。しかし、離婚の原因が、同性愛であったとか、自殺したとか、事件に巻き込まれて死に追いやられたとか、何れにしても晩年は不遇だった様です。

彼の音楽は旋律が美しく、哀感を帯びてしかも人々に大変愛されました。そしてロシア民謡を世界に紹介した事も決して見逃せない大きな功績です。チャイコフスキーが亡くなって四半世紀後帝政ロシアという国自体が1917年の革命で滅びて、ソヴィエトという新しい国に生まれ変わります。200の民族、120の言語、15の共和国から成る、途轍もない寄り合い所帯になってしまいましたが当然人々は変わりません。むしろ帝政ロシア以前からの古き良きロシアを受け継いで営々と彼らの文化を育てて来たのです。

音楽面での文化、それはロシア民謡に他なりません。国家による芸術への統制は、1923年ロシア・プロレタリア音楽協会が設立され従来の伝統的な物が全て否定される方向へ動きました。32年全ソ連作曲家連盟が結成され、今度は共産党による統制も厳しくなります。その後53年スターリン没後まで、ある意味でのロシア芸術の冬の時代が続きました。しかし数々の名手や、天才を輩出したロシア芸術は世界中で温かく迎えられ、ファンを増やしました。日本では歌声運動が社会主義運動と共に、戦後のある時期に全国に広がったのです。そこで歌われたのがロシア民謡でした、しかしロシア民謡が、人々に受け入れられたのは決してイデオロギーを訴えるためではなく、あまく切なく時として物悲しく響くあの独特のメロディーが、日本人に広く愛された結果だったろうと思います。走れトロイカなんて蛍の光以外で、これだけ皆が知っている曲も少ないでしょうし、これからもロシアと言う国が無くなってもロシア民謡だけは、その名を残して行く事と思います。



松尾 昌美 指揮

昭和36年、関西学院大学文学部美学科卒業。音楽美学、音楽史を張源祥氏に師事。40年、大阪音楽大学作曲科卒業。作曲を近藤圭氏に師事。指揮法を桐朋学園に学ぶ。関西歌劇団演出部スタッフとして入団、以来数多くのオペラコンサート、特別公演、室内オペラ公演の指揮者としても活躍している。54年度文化庁海外研修員として渡独、ミュンヘン国立歌劇場で研鑽を積み、53年3月帰国。平成4年尼崎市市民芸術奨励賞を受賞。現在、モーツァルト合奏団指揮者、新唱会合唱団主宰、関西歌劇団参与、日本指揮者協会会員、大阪音楽大学教授。



岡本佐紀子 ピアノ

大阪音楽大学ピアノ科卒業。永井淳子氏に師事。ジョイントリサイタル開催。ピアノコンツェルト等ソリストとして活動をするのみならず、管弦打楽器・歌曲・オペラなどの伴奏者としても幅広く活躍している。



早野柳三郎 作詞・作曲・編曲
指揮・ピアノ

大阪音楽大学作曲科卒業。中学校教員、ヤマハ音楽教室指導講師を経、大谷女子大学合唱団、龍谷大学男声合唱団、OMC等の依頼により、数々の作詞・作曲・編曲作品を手掛け、自ら指揮・ピアノ伴奏も行いそのユニークな語りくちと共に独特の作風で知られる。「バイエルによる女声合唱曲集その1」「同その2 アルプスのやまびこ」「フィガロの結婚序曲」「クラシックよコンニチワ」(以上音楽の友社刊)等の女声合唱曲集を出版。現在、大谷女子大学教授。

● ごあいさつ ●

本日は、お忙しい中、多勢の皆様方お越し頂き、まことに有難うございます。

私達OMCも、本日23回目のリサイタルを、開催する事が出来ました。これもひとえに、皆様方のご支援の賜と心から御礼を申し上げます。

さて、仕事や家庭とのバランスを保ちながら、練習を積み重ねた成果を、本日まで披露させて頂くわけですが、私達の基本ポリシーは、常に、「お客様に楽しんで頂く」こと。さて、どうなりますことやら？

まずは、お馴染み「Sea Chanty」。何度歌っても暗譜のできない、不思議なお得意？の分野です。

じっくり聞かせる「組曲」を経て、お待たせ「早野節」と続きます。

ステージには33人しかいないのに、総勢21人ものソリストが登場する所が見ものです。

そして、本日のメインイベントは、「アンコール曲」。一番難しく、一番練習を重ねた曲です。来年は創立30周年。本日の勢いをベースに更に飛躍を求めて頑張りたいと思いますので、今後共ご支援の程お願い申し上げます。

本日は、最後までごゆっくりとお楽しみ下さい。

キャプテン 下出 澄夫

歌会始め

OMC

●(名前) (テーマ) (和歌) (役職) (入団年)

●Admiral
松尾 昌美 [音楽ははげしく情熱をかきたてるが又瞬時に消去するはかなさもある] (アドミラル) (1978年)

●Guest
岡本佐紀子 [さんざん悩んだ末に一首] (1987年)

●Bass
石尾 雅昭 [無題] 歌好きの三つ子の魂百までもと楽しみながらの今回のステージ (1980年)

宇野 健一 [今年の生き方] 人生は双六ゲームと いきたいね ゆっくり急いで 転んで感謝 (1966年)

尾崎 公昭 [第3ステージの本音] ソリストが多くて困まる オエムシー 早野先生で パーゲンセール (1975年)

鎌田 昌彦 [出張途上にて詠める歌] 突然の 観声あがりて 目覚むれば 感動新なり 車窓の富士 (1981年)

杉野 文昂 [無題] 冬の夜 南の空には オリオンの 輝く光 ふるえつつ見る (1976年)

藤川 雄紀 [無題] おとにきけ おっさんたちの えねるぎい むげんのねいろ しぼしきかん (1974年)

箕津 正尚 [今の気持ち] 百貨店 おばちゃん の ムレに 喜びと 思いながらも プタマンを売る (1965年)

堀 清 [妻の料理] 惚れ直し 料理の腕は 金メダル 良い味出すよ しあわせ者よ (1988年)

●(名前) (テーマ) (和歌) (役職) (入団年)

●BARI-TONE
有田 仁一 [哀愁の坎ニングプレス] ああ苦しここで一発かましたら みんなと同じ口をして (1984年)

石津 佳彰 [〇〇に捧ぐ] つかの間の 逢瀬の時も はや過ぎて 見送る 背中に 次はいつの日 (1965年)

加藤 克雄 [もしもベーターペンがいなかったら] クラシック ベーターペンのおかげにて オケストラは 儲かりますねん (1978年)

北場 栄和 [練習にかよう電車の中にて] 大和より かよいし道は 遠かりき 恋の道より こく近し (1986年)

左手 豊文 [無題] 本日は 来ていただいて ありがとう 女性のみなさま 感謝してます (1990年)

高木 武史 [無題] 今度こそ 全曲暗符の 意気込も あとひと月に 夢のまた夢 (1986年)

高橋 佳己 [6/12由独唱コンサートを想い(道は遠い遠い……)] 息を保て ひびき届くと 発すれど 我が意とならぬ 声の哀しき (1975年)

長友 伸吾 [車窓より妻を想って詠める歌] ふと気付き みあげる空は すみ渡り きらめく雲は よぶか私を (1990年)

每野 正紘 [無題] あきませず 歌い続ける ハーモニー 止めたくもあり 止めたくもなし (1966年)

●(名前) (テーマ) (和歌) (役職) (入団年)

●SECOND TENOR
赤井 澄夫 [夢の中で会った♡さんに捧げる歌] この想い あなたの心に届くまで 僕はずうーっと 歌い続ける (1992年)

川村 潤 [ショパン] ホロネズ バラード ワルツ ノクターン マズルカ ソナタ 前奏曲 (1988年)

河村 稷香 [婚約や破談等聞いて思ゆる] 恋したい 恋にこがれて 恋煩い 鯉こく過ぎし 恋人の肥ゆ (1983年)

坂谷 真郎 [健康を考ふる歌] 赤提灯に通う日々は 多かれど 体をいとう 日々は少し (1983年)

佐竹 広吉 [本番前に] 梅の花今盛りなり 百人の 歌声響く 春来るらし (1992年)

下出 澄夫 [〇〇の詩] 〇〇を 求めながらも また遠い げに難しき 〇〇の味 (1972年)

鳥居 信男 [無題] 歌に口境無し 独り静かにへフリガいの 早春賦を聞く (1973年)

半田 孝 [初夢は正夢?] Tigers 去年の勢い 引き続き 今年も 駒上げ 甲子園カナ? (1970年)

松岡 康生 [今日も来ています] 教室で 共に歌いし この子らと いつの時にか ステージに立たん (1988年)

●(名前) (テーマ) (和歌) (役職) (入団年)

●TOP TENOR
荒木 洋行 [指揮者に楽譜のデイミネンドを指摘されて] OMC 雅の道の 遠ければ また譜見もせず 残る大声 (1990年)

粟津 重光 [ドイツ語の楽譜を見て詠める] 読み返せど 読み返せど 遅まる暗譜 ちつと譜を見る (1986年)

安藤 邦昭 [OMCへの参加意識(態度)] 今度こそ 暗譜で乗るぞと 誓ってみるが 結果は 譜面にかぶりつき (1973年)

川合 恭 [合宿中に読みし歌] 大声で 歌い歌いて のどはかれ 今日も元氣だ タバコがうまい (1980年)

北川 達矢 [職場にて] アイデアを 出したばかりに 仕事ふえ 切りまへの 和歌に苦しむ (1992年)

近田 圭三 [力士にささげる歌] 貴ノ花 小綿 寺尾 若花田 輪島 魁傑 北尾 逆鉾 (1991年)

中村 文雄 [無題] 中村は ふびんな奴だ ときにかう 自分で言ひて かなしみでみる (1985年)

藤川 文義 [無題] 吉野山 新年会と 間違つて 参加したるは 猛練習 (1966年)

村川 真人 [妻に捧げる歌] わが女房 手弁当で 送られて 口には出さぬが 感謝感激の毎日よ (1991年)

OMC航海規律(抜粋)

(総則)

1. 本合唱団は、OSAKA MEN'S CHORUS (OMC) と称する。
2. 本合唱団のテーマ・ソングを「Sailing! Sailing!」とする。
3. OMCは男声合唱を愛する者の集まりであり、特に Sea Chanty を主たるレパートリーとするため、人事組織等を帆船に例えて構成する。

(乗組員)

4. 本船乗組員は下記で構成する。
 甲板員 (sailor) — 正団員 — 甲板員資格を認める。
 陸上員 — 旧・休団員 —
 乗客 (Guest) — その他
- 5-1). 甲板員は次の資格を有する者とする。
 甲板員資格確認試験に合格した者、及び船長が適当と認めた者。
- (2). 甲板員資格確認試験は付帯組織図による船長、副船長、三役 (一等航海士、機関長、水先案内士) 及び各機関士にて行う。
- 6-1). 甲板員は7-1)項に示す義務を正常に果たし得る者を云う。
- (2). 陸上員は個人的理由により甲板員としての義務を果たせず、かつ理由解消時には甲板員に復帰する意志のある者。東京灯台部所属の者。及びOMCを一旦下船した者で、本船と常に密接なる関係を持つ意志を有し、本船の発展に何らかの形で寄与できる者を云い、7-2)項の義務を負う。
- (3). 乗客は本船と常に親密な関係を有する意志のある者で、甲板員資格確認試験の受験資格を有しない者を云い、7-3)項の義務を負う。尚便宜的呼称としてリサイクル一般乗客と区別する意味で特別乗客と云う事もある。
- 7-1). 甲板員は次の義務を負う。
 (a)本規律付帯の甲板員規則の遵守。
 (b)定期航海 (練習)、臨時航海 (練習)、その他航海機構において決定した特別航海 (練習) への参加。
 (c)リサイクル及び航海機構において決定した公式行事への参加。
 (d)本規律付帯の燃料費規則に定める航海燃料費 (会費) 及び必要に応じ徴収する費用の納入。
- (2). 陸上員は、本規律付帯の燃料費規則に定める陸上員としての通信費の納入の義務を負う。
- (3). 乗客は、本規律付帯の燃料費規則に定める乗客としての通信費の納入の義務を負う。

(航海機構)

8. 本船甲板員の構成は、本規律に付帯する組織図による。
 (1)船長は前年度船長の指名で決定する。
 (2)甲板員構成は、船長が決定する。
 (3)任期は1年とする。
 (4)プロジェクト的組織は船長が必要に応じて設定する。
- 9-1). 船長は、本船航行中における総ての決定権を持つ。
- (2). 船長不在の場合は、副船長及び三役合議にて決定を行う。
- (3). 組織上の実務内容は、本規律付帯の組織図の通りとする。
- 10-1). 船長の判断により、責任者会議を開催する。
 (2). 責任者会議は、船長、副船長、一等航海士、機関長を常任として下記の者で行う。
 航海関係 — 航海士、通信長、事務長、航海担当水先案内士、甲板長
 機関関係 — 機関士、司厨長、機関担当水先案内士

11. 本船の航海は1月1日~12月31日を一般航海年度とし、実質的出帆日は新年出帆式 (新年会) とする。
12. 航海年度内の航海内容は、出帆式までに基本内容を決定するが、詳細はその都度船長及び副船長、三役にて決定する。
13. 航海内容は次の二つに区分され実施される。
 (1)OMC公式参加行事 — 甲板員は全員参加する。出演料が支払われる場合、一部をOMC燃料費として差し引く。
 (2)OMC有志参加行事 — 甲板員の有志を募り、OMCの名称で参加する。出演料が支払われる場合、全額個人所得を基本とする。

(出帆記念日)

14. 毎年1月25日を出帆記念日とする。

(付則)

OMC燃料費規則

1. OMC乗組員は、OMC航海規律の定める処により、航海に拘わる燃料費及び通信費を納入する義務を負う。
2. 乗組員毎の燃料費及び通信費の金額・納入方法は下記の通りとする。
 (1)甲板員一月額3,000円の各月前払いとし年払いも認めるが減額はない。但し学生は月額1,500円とする。
 (2)陸上員 — 年額3,000円とし、各年の前払いとする。(通信費負担)
 乗客 (特別乗客) —
3. 燃料費又は通信費を納入した乗組員は、OMCが発行する航海日誌を定期的に受け取り、定期航海内容またはOMC主催行事、及びOMCが関係する各種情報を入手できる。
4. 新規に甲板員の資格を取得する場合、Sea Chanty曲集 (1集及び2集) の費用として4000円徴収する。

OMC甲板員規則

1. 航海中は、「足長く酒好きで女の子にもてる」を座右の銘として、良き家庭人としても社会人としても各人間関係を円満に継続する事を心掛けなければならない。

OMC懲罰・表彰規則

1. 船長は、航行中に重大な過失のあった者、或いは船内の雰囲気著しく乱し航行の妨げとなる可能性のある者に対し、訓告、戒告、下船命令を行う。但し下船命令は、副船長、三役と合議の上決定される。
 (1)訓告 — 船長が口頭で本人に対して行い、航海日誌に公示される。
 (2)戒告 — 船長が口頭及び文書で本人に行い、航海日誌に公示される。
 (3)下船命令 — 船長が口頭及び文書で本人又はその代理人に行い、航海日誌に公示される。下船命令を受けた者は以後OMCの航海には参加できないが状況により復帰を認める事もある。
2. 船長は、航行中多大なる貢献を果たした者を表彰する。表彰は、新年出帆式、または船長が必要と認めた時に行う。尚表彰を受ける者には、記念品を添えその功績を讃える事がある。

OMC航海機構組織

